



公益社団法人 全国大学体育連合
第6回大学体育指導者養成研修会
研修概要

期日：2015年8月19日（水）～21日（金）

場所：立教大学池袋キャンパス

研修種目：

○クライミング

講師：水村信二先生（明治大学）

○テニス

講師：野田達也先生（東京電機大学）

板橋クリストファーマリオ先生（横浜国立大学非常勤）

コーディネーター：後藤光将先生（明治大学）

○バレーボール

講師：田中博史先生（大東文化大学大学）

コーディネーター：村本和世先生（日本体育大学）

講義：「映像を用いたオリンピック・パラリンピック教育」

講師：舛本直文先生（首都大学東京）

体験講習：Physical Education in English

講師：Kelly F. McGrath (Meiji University/Rikkyo University)

特別講演：「あるべき大学教員（指導者）像」

講師：安西祐一郎先生（公益社団法人全国大学体育連合会長/独立行政
法人日本学術振興会理事長）

文部科学省講演：「コーチング推進イノベーション事業について」

講師：関 伸夫様（文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課
スポーツサービス振興室 室長補佐スポーツ指導専門官）



スポーツ振興くじ助成事業

☆クライミング（ボルダリング）

【テーマ】大学体育にクライミングを導入しましょう！

【講師】水村信二（明治大学文学部）

【概要】

（本研修で扱うクライミングのジャンル）

本研修で扱うクライミングは、人工壁に取り付けられた手がかり足がかり（ホールド）を使って約4メートルの高さまで登る「ボルダリング」というジャンルです。

（クライミングの魅力）

2015年5月現在、日本全国には370店舗を超える民間クライミングジムがあるとされ、現在も増加し続けています。そしてそのほとんどがボルダリングジムです。ボルダリングでは、身につける専用用具はクライミングシューズのみです。これに加えて制汗剤とその入れ物（チョークとチョークバッグ）さえあれば楽しむことができます。また、年齢、性別、体力・技能レベルなどが異なる集団においても、各自のレベルに合った課題に取り組んだり、登り方を話し合ったり、互いに応援し合ったり励まし合ったりすることにより、その場にいる皆が一緒に楽しむことのできるスポーツです。

（大学体育教材としてのクライミング）

私はこのボルダリングというスポーツが、毎回の授業において達成感を得やすい教材であり、半期の授業を通して自己効力感を高める大変有効な教材の一つであると考えています。明治大学文学部の体育実技におけるクライミングは、必修科目においても選択科目においても定員を大きく超える人気種目です。また、これまで体育が苦手だった学生さんにも人気の高い種目でもあります。

（本研修の目的）

本研修では、1)大学体育教材としてのクライミングに興味を持っている大学体育教員の皆様に対して、私が普段実施しているクライミング指導の一部を研修していただくこと、2)クライミングを大学体育教材として導入するために必要ないくつかの資料を提供すること、更には、3)既にクライミング授業を実施している先生方と情報交換をすることなどを目的として実施します。ぜひ多くの大学体育教員の方々に参加していただき、今後の大学クライミング教育の発展について一緒に議論できればと思っています。

【研修内容】（予定）

8月19日午後（13:00～17:00）

- 講義（13:00～13:30）「クライミングのジャンル、クライミングの危険性と安全対策」
- 実技（13:30-15:00）「ホールディング、フットワーク、基本ムーヴの習得」
- 実技（15:10～16:40）「ボルダリング課題に挑戦、長もの課題に挑戦」
- 講義（16:40～17:00）「大学クライミング授業情報」

8月20日午前（9:00～12:00）

- 実技（9:00～10:30）：「応用ムーヴの習得」
- 実技（10:40～12:00）：「各種練習方法（アドオン、ライブ、アイマスクなど）紹介」

8月20日午後（13:00～16:00）

- 実技（13:00～14:20）「コンペティション（個人戦）」自分の力だけで課題に挑戦！
- 実技（14:30～15:30）「コンペティション（団体戦）」皆で協力して課題に挑戦！
- 講義（15:30～16:00）「クライミング授業導入のために（必要な施設・設備、消耗品、シラバスなど）」

☆テニス

テーマ：様々な環境・状況に合わせたテニス授業の展開

コーディネーター：後藤光将（明治大学）

講師：野田達也（東京電機大学）

板橋クリストファーマリオ（横浜国立大学非常勤）

講習概要：

テニスの授業を展開するうえで必要と思われる各単元の基本的な実施方法を学びながら、様々な環境特性（用具、人数、雨天時施設など）に合わせた授業展開方法のバリエーションを紹介します。テニスは天候不良によりテニスコート外での実施が強いられることもあります。教室で行う講義・簡易実技、体育館での実技などの教材例も含めながら、半期 15 回のテニス授業を運営するノウハウを修得します。これからテニス授業を担当予定の先生、あるいは、さらにテニス授業の幅を広げたい先生に最適な研修内容となっています。

スケジュール：

第1部 8月19日（水） 13:00 - 17:00

1. オリエンテーション【第1回】
2. PLAY & STAY【第2回】
3. ストローク【第3～4回】
4. サービス【第5～6回】
5. 屋内実技（教室）【第7回】

第2部 8月20日（木） 9:00 - 12:00

6. ボレー・スマッシュ【第8～9回】
7. 回転を加えるストローク【第10回】
8. ゲームの陣形【第11回】
9. テニスの歴史・ルール・マナー【第12回】

昼食および種目別ディスカッション 12:00 - 13:00

第3部 8月20日（木） 13:00 - 16:00

10. テニス観戦の基礎知識【第13回】
11. 屋内実技（体育館）【第14回】
12. まとめ（様々なゲーム形式）【第15回】

☆ バレーボール

～仲間をつなぐ，ボールをつなぐ…さまざまな事を「つなぐ」バレーボール～
コーディネーター：村本和世（日本体育大学）

講師：田中博史（大東文化大学）

講習概要：

2つのチームがネットをはさんで身体接触なくプレイできるバレーボール。それゆえ男女混合でも大いに楽しめる競技である。その競技特性を生かし安全にかつ楽しくプレイするためのエッセンスを基本プレイの習得から指導法段階的ゲームの進め方まで、実際の授業での進行方法など多面的に紹介する。「楽しい」バレーボールの実現により「つなぐ」ことが生まれ仲間とのコミュニケーションを高めることが目標である。

スケジュール

8月19日（水） 13：00～15：00 田中博史
「バレーボールの競技特性と導入手立て」

8月19日（水） 15：00～17：00 田中博史
「基本技術の習得とその考え方」

8月20日（木） 9：00～12：00 田中博史
「バレーボールのグループ戦術や様々なゲーム」

8月20日（木） 13：00～16：00 田中博史
「習熟度の違いによるゲームとその考え方」

講義：テーマ「映像を用いたオリンピック・パラリンピック教育」

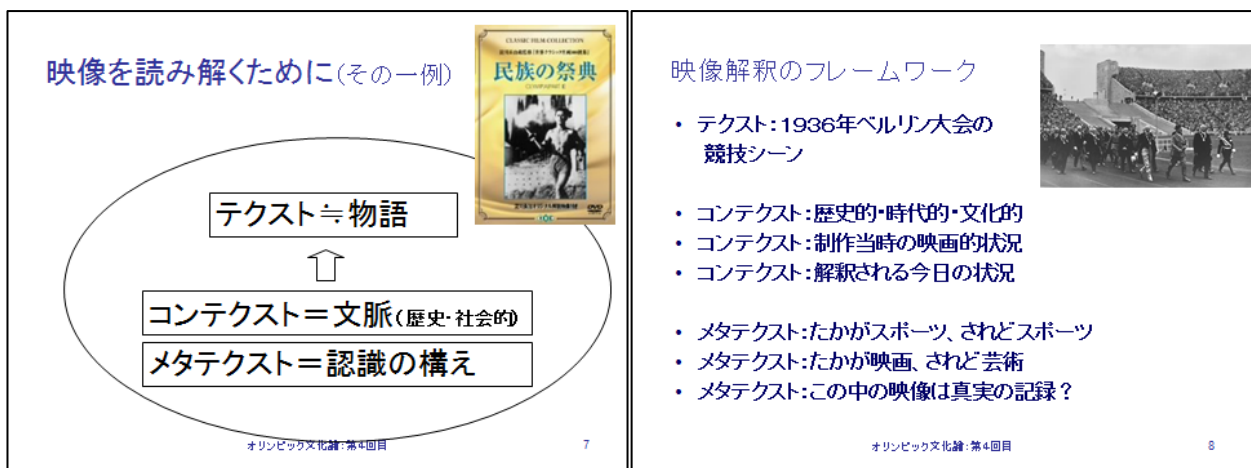
講師：舛本直文（首都大学東京，NPO 法人日本オリンピック・アカデミー理事）

<講義概要>

オリンピック関連の映像にはIOCの公式記録映画とスポーツドラマ映画の両方があります。公式記録映画としては、短編は1896年のアテネ大会から、長編は1912年ストックホルム大会から制作されています。1932年のロサンゼルス大会では映画の都、ハリウッドの関心と呼ばなかったのが興味深いところです。1936年ベルリン大会のレニ・リーフェンシュタール監督の長編の記録映画『オリンピア』（『民族の祭典』と『美の祭典』（1938）の2部作）が名作として名高いものです。市川崑監督の1964年東京大会記録映画『東京オリンピック』（1965）とともに、この2作品が記録映画の2大名作とされています。IOCは今でもオリンピックの公式記録映画の制作を開催都市に義務づけていますが、1984年ロサンゼルス大会以降、アメリカのバド・グリーンズパン監督によるヒーローや惜敗者の人間物語を中心とした作品が多くなっています。1998年長野冬季大会の記録映画も残念ながら日本人の監督ではなく、グリーンズパン監督が人間ドラマとして制作しています。彼は2010年バンクーバー冬季大会まで公式記録映画を撮り続け、「ミスター・オリンピック」と呼ばれていました。スポーツドラマ映画では、『フィニッシュ・ライン』（1989）は勝利至上主義に陥ったスポーツ奨学生のドーピング問題を描いています。『クール・ランニング』（1993）は喜劇映画調ですが、クーベルタンの唱えたオリンピズムとヒドゥンメッセージとしてのラストファリアニズムが描かれた佳作です。『炎のランナー』（1981）は、実在の2人の名ランナーの実話をもとにしたドラマ映画ですが、娯楽映画として脚色されていることを忘れてはいけません。

このように、映画とオリンピックおよびスポーツはお互いに支え合って発展してきた長い歴史を持っています。とくにスポーツ・ドキュメンタリーは、単なるスポーツ中継や結果の速報を中心とするスポーツ・ニュースと違い、またテレビのスポーツドラマとも異なり、制作者の意図が強く反映された映像作品として確たる地位を築いてきました。そこには、時代の感性やスポーツ思想といった精神文化が制作者たちの意図としてしっかりと描かれていることを忘れてはなりません。

そのために、映像の持つ強烈な力を読み解き、制作者達の意図に肉薄するためには、メディア・リテラシー能力が必要とされます。メディア・リテラシーとは、「市民がメディアを社会的文脈でクリティカルに分析し、評価し、メディアにアクセスし、多様な形でコミュニケーションを創り出す力を指す。」（鈴木みどり，1997）とされます。中でも、「メディアは現実を構成する」：既に誰かの目を通して、計算され、再構成されているスポーツ現実というものを忘れず、「視聴者オーディエンス」から「批判的読み手クリティックス」へと学生達を導かなくてはなりません。定式は「映像等で描かれたテキストをコンテキストに応じメタテキストに配慮しながら解釈すること」（舛本）です。図は、参考までにベルリン大会の『オリンピア』を例に、その関係性を示した模式図です。



Workshop Title: Physical Education in English

Topic: English instruction of a content based physical education class for university EFL learners

Presenter: Kelly F. McGrath, Ph.D. (Meiji University / Rikkyo University)

Introduction:

In Japanese education, English instruction is typically associated with classes oriented towards language-based instruction. Since the implementation of Global 30 by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology there has been a growth of classes and programs at Japanese universities using English as the medium of instruction for content-based instruction (CBI). English instruction to EFL students in a CBI environment such as physical education offers some very unique advantages not only for the development of sport skills and promotion of fitness, but also furthering communication skills, task-based learning and student self-efficacy.

Benefits:

Students taking a sports studies class in English can get added benefit from receiving instruction in a variety activities. Providing both familiar and unfamiliar activities will serve to enhance the language comprehension and the immediate self-efficacy a student experiences upon completing a task. During this process students can be directed to reflect on the completion of a task in one of four ways: (1) I completed the task independently based on my comprehension, (2) I understood the instructions but needed confirmation by watching others before completing the task, (3) I had partial comprehension of the instructions, but completed task based past experience or risk-taking, or (4) I did not comprehend the instructions and completed the task based on mirroring the actions of others. This feedback can be valuable in language growth both the instructor and student by shaping future tasks.

Purpose of the Workshop:

The primary purpose of the following workshop is to provide educators an opportunity to experience a university style physical education class in English. In addition, participants will learn a variety of instructional approaches used to promote skill development, fitness and the wellness concept. Finally, participants will have an opportunity to exchange ideas and strategies for promoting both content-based instruction and communication.

Schedule:

Friday, August 21 (9:00 – 11:30)

- | | |
|---------------|--|
| 9:00 – 9:30 | Introduction and Medical Pre-screening (Par-Q) |
| 9:30 – 10:00 | Par-Q Fitness Components & Guidelines (Planning your activity F.I.T.T.) |
| 10:00 – 10:30 | Flexibility/Strength – Circuit Training (Verbal/Non-verbal instructions) |
| 10:30 – 11:00 | Wellness Promotion and mindfulness activities |
| 11:00 – 11:30 | Reflecting on novel activities and discussion |